

# 日本ヒーブ協議会が総会

## 設立40周年へヒーブの使命確認

生活者と企業のパイプ役として、生活者の利益確保と企業の健全発展に寄与することをめざす日本ヒーブ協議会は四月二十日、二〇一八年度総会を都内千代田区・都市センターホテルで開催した。

総会では、一六年、一七

年度の二年間代表理事を務めた第一生命経済研究所の宮木由貴子さんから引き継ぎ、今年度代表理事に日本生命保険の梶原織梨江さんが選出された。

日本ヒーブ協議会は今年九月に設立四十周年を迎える。梶原新代表理事は、

「ヒーブの強みは生活者視点と事業者視点の双方からアプローチでき、多様な業種・部門で働く女性による異業種交流ができるという特徴を持っていること。発信力を高め、多様性を重視した活動を今後も推進していく」

今年度の活動テーマを「次世代へつなぐこれからのヒーブ」生活者視点と多様性を企業で発揮する」とし、ヒーブの存在意義を活動成果を通して社会に発信していくことを抱負として説明した。

総会後の公開講演会には日経ウーマン元編集長の麓幸子さんが講師に招かれ

た。麓さんは、「イノベーションと新たな価値を創出するヒーブという存在」をテーマに、七〇年代からの女性活躍の歩みを報告。その中に日本ヒーブ協議会の活動を位置付け、「発足当初から現在の課題を先駆けて取り組んできたのがヒーブ」とし、四十年間の活動の意義を紹介した。また、「女性が働きにくい職場は男性も働きにくい。女性の意欲が男性にも意欲を与える。女性の健康寿命は男性よりも長い。今こそ女性にチャンスがきている」とし、今後の日本ヒーブ協議会の活動に期待を表明した。



「次世代へつなぐこれからのヒーブ」。総会から今年度活動方針決定(4月20日)